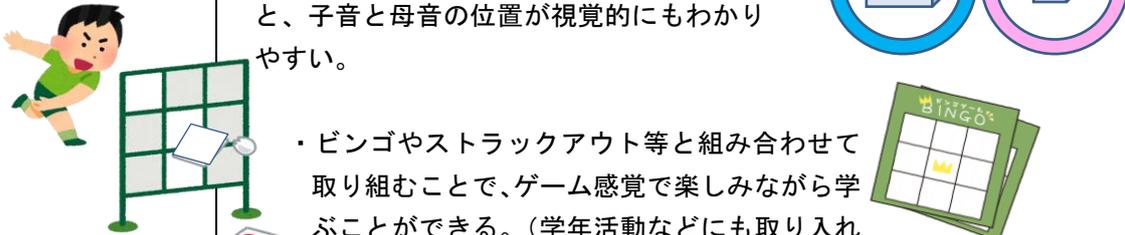
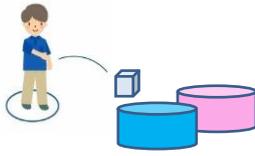


大項目	英語
小項目	ローマ字・アルファベット
タイトル (教材名)	ローマ字サイコロ
目的 身につけてほしい力	ローマ字の定着 子音と母音を意識する
教材の概要 材料 作り方 工夫点など 画像	<p>子音のサイコロと母音のサイコロを作り、ふって出た子音と母音でできたローマ字を読むことで、遊びながらローマ字を学ぶことができる。</p> <p>●画用紙（柔らかい紙の方がしなりやすく、つまんで投げる場合にはよい） ●マジック</p> <p>・子音のサイコロと母音のサイコロの大きさに違いを出すと、子音と母音をより意識しやすくなる。</p> 
教材の使用方法	<p>・子音・母音サイコロをふる。</p> <p>・できた文字を声を出して読むように促す。 (子音「K」と母音「o」なら「Ko=こ」のように)</p> <p>・サイコロと同じ色の枠を用意し、その中にふったローマ字サイコロ置くようにすると、子音と母音の位置が視覚的にもわかりやすい。</p>  <p>・ビンゴやストラックアウト等と組み合わせて取り組むことで、ゲーム感覚で楽しみながら学ぶことができる。(学年活動などにも取り入れられる)</p>  <p>・サイコロをふる時に、箱などに投げ入れるようにすると、目や力の調整のトレーニングになる。</p> 
その他	<p>・都道府県名に興味のある児童生徒に使いました。サイコロで出た文字から始まる（もしくは、文字のある）都道府県名を答える等、他の教科との合科で取り組むとやる気も上がり、楽しみながら活動することができました。(例えば「こ」の場合であれば、「<input type="text" value="こ"/>うち県!」「か<input type="text" value="こ"/>しま県」のように)</p> <p>・自立活動の項目との関連</p> <p><環境の把握>①保有する感覚の活用に関すること (視覚：注視、追視、模倣、目と手の協応など)</p> <p><身体の動き>⑤作業に必要な動作と円滑な遂行に関すること (手の操作：つまむなど)</p> <p><人間関係の形成>③集団への参加の基礎に関すること (集団参加に関すること、きまり)</p>